

| |
|-------|
| 代 表 者 |
| |

(様式第 号)

研 修 報 告 書

令和元年11月8日

各 会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

土井 正純 印

小田 晃士朗 印

次のとおり研修会に参加したので報告します。

1. 研修期日

令和元年10月26日(土)

2. 研修項目

NPO 法人ドットジェイピー 学生チームの発表・ワークショップ

3. 参加議員

土井 正純, 小田 晃士朗

4. 随行者

なし

広島県広島市

■勉強項目

広島クラブ・NPO 法人ドットジェイピー合同勉強会

・調査対応者

広島クラブ 代表 大田祐介

環太平洋大学 准教授 林紀行

NPO 法人ドットジェイピー

・研修期日

令和元年10月26日（土）午後14時00分～午後17時00分

・勉強目的

大学生との意見交換、ワークショップを通じ、社会課題への新たな解決策の考察と同時に、若者世代への政治関心を高めること

・研修内容

【NPO 法人ドットジェイピー内で行われる未来国会という政策コンテストにおいて、全国大会に選ばれた学生チームの発表】

◆政策内容

ビジョン 若い声が活きる日本

重点施策1 新しい科目「討論」の導入

自分の意志、意見の主張ができるような人間育成。後に投票率の向上。

生徒が輪を作り会議のような形である議題、話題に対して自分の意志、意見を主張するカタチの授業を小中学校での展開

重点施策2 政治ラーニングの日の導入

自己表現ができる姿勢、意見交流を積極的に行う姿勢を身につける。投票率向上などの政治参加を促す。

小学生3～6年生は、小学校に通う週一日を「政治ラーニングの日」とする。政治について学び、他学年と一緒に話し合いを行う。

重点施策3 全国生徒総会の導入

こどもの純粋な国に対する要望を国に届けるため、実際にあがった、自分たちの声の効力感をあげるため。

各学校の授業の中で、国に対する要望を政策と合わせて話し合ってもらい、学校単位でまとめ、最終的に全国単位でまとめ、通常国会で審議してもらう。

【学生と議員でのワークショップ】

○学生が決められたお題に対し、その課題について議員に聞く。

キーワード「自然災害」

学生 Q 広島には災害が多いがなぜか

議員 A 災害といっても多岐にわたる。全国的に見てもそうだが、未だかつてない台風や大雨などがある。これは世界的にもそうだが異常気象が原因である。

学生 Q 広島はどの災害が多いか

議員 A 狭隘な地形の特徴から土砂災害が多い。また芸予地震のような地震の通り道でもある

学生 Q それを知っている上で土砂災害の被害が大きかった。広島は災害対策をあまりしていないのでは？

議員 A 予算は十分にとって、インフラ整備を行っている。それをも超える自然災害が起こっている。ハード面の整備だけが災害対策ではなくなっている。

○その後決められた解決手段に沿って、その課題を解決する。

課題「自然災害」×解決「動画コンテンツ」

・課題設定

防災意識を向上させることで、被害を減らす

・方法

有名 youtuber に動画作成依頼をし、防災動画を作成。防災意識が低い若者の興味、意識を向上させる。それを地域全体に広げるため、自治体にも協力をしてもらい、お年寄りとお年寄りをつなげる場をつくってもらい、そこで防災について知識を高めていく。

○その他

課題「若者の投票率向上」「空き家」

解決「ヲタ活」「SNS」

【呉市での展開の可能性】

防災意識を高める取り組みとして、若者をターゲットとした取り組みは必要である
と考える。平成30年7月豪雨災害を経験した我々は、他都市と比べ、比較的意識
は高いと思われるが、具体的に何をすればいいのかまで落とし込む必要がある。ま
た、高齢者と比べ若者には周りを助けることができる行動力と体力があるので、そ
ういった層と高齢者をつなげる事も合わせて必要だと感じた。今の若者たちが興味
を持つコンテンツ（動画配信サイト、SNS等）に防災というコンテンツを加え、拡
散周知、それに知識と危機意識が加わった若者と高齢者をつなぐことで、地域防災
の強固なサイクルができるのではないかと考える。

また、呉市では空き家問題も課題としてある。若者の意見として空き家を資源と
とらえ、ライブハウスやカフェなどにするという意見が多かった。地理的な強み弱
みがあるとおもうが、現在呉市でも行っているリノベーションスクールに近い感覚
なのであろうと考える。また、ヲタ活としてサバイバルゲームができる拠点など、
面白い意見もあった。

最後に、こういった学生との意見交換ワークショップの場を持って感じたことは、
平均年齢が高い議会では思いつかない、新しい発想や考えが若い世代は沢山もって
おり、それを吸収する場は大切であると感じた。若者の意見も代弁できる、そうい
った会派であるべく、今後も積極的に若い世代との交流をもち、常にアンテナをは
り、情報を収集していきたい。

